

令和4年6月28日（火）博物館地域説明会（大富士交流センター）

<質疑応答>

・質問者①

質問：入館料は取らず、年間コストも税金から捻出されるのでしょうか。

回答：入館料は仮に頂いたとしても大きな財源にはならないので、費用に関しては税金からの負担ということになります。市として負担に耐えられるのかということは、財政部門との検討で可能とされています。文化財をきちんと残す、皆さんにお知らせする、知る権利を守るということに税金を投入すること自体は、財政をかけてでもやらなければならないことだと私どもは考えています。

・質問者②

質問：博物館の建設費用は22億、これからどんどん金額が膨れ上がって30億くらいになると思うのですが、100%財源はあるのですか。

もう一つ、500万円使ってこの計画を作りたいというのが市議会が出たのが三年前ですよね、そういう議題が市議会に上がることも自体も知らせない状態で突然議題が上がってた。（一部省略）市民にも聞けばいろいろ意見が浮かんでくるだろうに、一切周知なしに500万円を使って、そのあとも一切周知がありません。

もし仮に富士宮市にそんな素晴らしいものがあるならばどうしてもっと前から市民に知らせようとしなかったのですか。富士宮にはこういう誇りを持てるものがありますよというのを見せたことは一度も無いじゃないですか。

文化会館のところへ行って中を見ても私に、市民に訴えかけるものが何もないし、こんな物しかないの。（一部省略）

回答：議員さんから付帯決議が出されたものは、市民周知を行うことを条件に予算をつけるからちゃんとやりなさいということで認識しています。

今この説明会をやっていること自体も議員さんのほうから求められた『市民にしっかり説明しなさい』ということです。

本来ならばコロナが拡大する前に行いたかったのですが、感染が拡大している状況で市民の皆様を集めることができなかつたため、今こうして周知をしています。

質問：文化会館の展示をね、もうちょっと魅力的な展示をして

回答：文化会館の展示については私どもがやっております。ただ、文化会館の施設は光の量も暗く、展示のケースもちゃんとしていません。そのため貴重な文献等は出せず、展示施設として十分な場所ではありません。

できる限りのことはやっておりますが、それ以上はできないので博物館が必要だということです。

質問：でも 22 億ものお金をかけることに賛成する市民がいますか？

市民に何にも見せないで、こんなに魅力があるんですよと見せないで……

回答：私に訴えかけが無いということですが、他の会場の説明会での、学芸員の文化財に関する話の際にも、その場その場で『あなるほどな』とか、感想をいただいています。文化財に興味のある方からは早く博物館を作って欲しいという意見もあるんです。

私には必要ないから、ということではなく、市の将来のことを考えての投資だと思っています。

子供たちに富士宮市の歴史を知ってもらい、誇りをもってもらいたいと思っています。大人になって一回市外に出たとしても富士宮の良いところを友達に紹介したり、戻ってきてくれるような、魅力ある街にするための投資だと思っていますので、私に引っかけられないとか、そういうことだけで言われてしまうと……

質問：知らない人が多すぎますよ。全世帯にアンケートを取るべきです。

回答：まず、皆さんが（博物館を）どういうものか知らないのにアンケートを取れないでしょう？

質問：それを知らせなくてはだめでしょう。

回答：今日が、その第一歩だと考えてください。

質問：百歩譲って五年後にして、今からどんどん進めて五年後に一番いい方法で市民が……

質問（別の方）：ちょっとすみません。時間がないので、一部だけで意見にしないでください。

・質問者③

質問：男女共同参画社会ということですが、検討委員会の中に女性が一人しか居ない理由を教えてください。

富士宮市の特徴を生かした、富士宮市ならではの博物館にするためには学芸員さんの力が大きいと思います。検討委員会の中に学芸員さんが居ない理由を教えてください。

私はこの計画には反対ではなく、富士宮市の伝統・文化・歴史を、もっと早く皆に大事にもらえるような施設を作って欲しかったです。私は博物館の建設には賛成です。

回答：まず、検討委員会に女性が一人しかいらっしゃらないとのことですが、残念ながら富士宮市の文化財を取り巻く環境の問題もあると思います。

学術関係の研究者の方、博物館勤務をされている方には、富士宮市の職員以外ですと女性がほとんど居ません。文化財保護審議会にも女性は少ないです。女性の方にお問い合わせしたかったのですがお願いできる方がいらっしゃらず、PTAの方に出ていただいた以上いらっしゃらなかったというのが現実です。意図的に外したとか、そういった

ことではなく、いろんな方に打診したのですが残念ながら、ということです。
二点目に検討委員会の委員の中に学芸員が居ないということですが、実は学芸員という立場の参画ではないのですが、文化財保護審議会の委員をしていただいている、今回副委員長をお願いした方は学芸員の方です。他にも、もともと学芸員だった方がいますし、たまたま今は学芸員の仕事には就いていないけれど、博物館学芸員としての経験もお持ちの方もいらっしゃいますし、それ以外にも文化財の保護という立場で学芸員としての仕事をされていた方もいらっしゃいますので、ご心配されていません学芸員としての視点が足りないのではないかという点に関しては、私どもとしてはある程度反映できているものと考えています。

・質問者④

質問：展示の仕方について『富士宮市らしい展示』とのことで、それは今後具体的に変わってくると思うのですが、普通の博物館の展示の仕方ではない、見た人が問題視を持ってアクションを起こすような形にしてはどうでしょうか。例えば動画を作る、歩く博物館と連携を取っていく、といったことはどうでしょうか。アイデアを駆使して、あたりまえでない博物館にして欲しいです。

回答：私どももぜひそのようにしていきたいと思います。いろいろなアイデアがありましたらぜひお寄せいただければと思います。いずれにしても現在の状況は、文化財行政に携わる市の職員としては、こういった博物館を作りたいと思っておりますがいかがですかという段階ですので、これをもって確実に作れるという状況ではありませんので、いろいろな意見を反映させていただきたいと思っています。

・質問者⑤

質問：予算はもう用意されているんですか。全額市が用意すると言っていましたが、22億ものお金は今持っているんですか。

回答：市が色々な事業をやっていくにあたり、借金をしながら財政をバランスよく、一般企業もそうですが借りるものは借りて計画的に、全体に返していくという形もできますので、その辺りは財政や企画部門と協議のうえで20億、22億の範囲の中でできるのではないかと今動いています。

計画的にしっかり準備して導入できるような体制は整えてあります。

質問：これから建てるとなると、借金が半分くらいとなるかもしれないということですか。

回答：はい。それ以外に国の補助制度、昔は博物館を建てると補助金が出る制度があったのですが、今は博物館にこういう機能を持たせれば国が多少補助金を出す、というものがあるかもしれないということで、財源を探すということも今やっていますので、できれば国などの財源も（利用できれば）と考えています。

ただ、（補助を受けること）ができるかどうかは、博物館の中身によって変わってき

ますので、確実には言えないのですが、努力はしていきたいと思っています。

質問：一億円かかるという経費や運営費については確かなのですか。

回答：こういったものを作るという大きなイメージの段階で、これから基本（計画）を策定する中で建物や展示、企画などの具体的な内容によって経費が変わってきます。身の丈にあった博物館にしていきなさいよという中で市民にとってあそこに行けば楽しいねって思ってもらえるような施設をこれから専門家の方を入れて検討していきます。

質問：収入は無いんですよね。

回答：そもそも、博物館自体は文化財を後世につなぐためにいかに残していくかということで、しっかりやらないと朽ちていったり、紙の物なんかは張り付いて取れなくなり、少しずつめくってやっと見えるようになる等、そうなってしまいますので収蔵庫は必要になってきます。

まずそのような施設も確実に整備していきたいと思っています。

質問：その収蔵庫にはお金がかかりますよね。

回答：行政としてやらねばならないこととして、次の世代に残していかなければならないのです。

質問：やらねばならないのは分かりますが、借金も残してしまいます。

回答：市の事業として、例えば学校の校舎もそうですが、他には何もできないというのではなく、計画的に、建物を建てるのにこのくらいは借入をしましょう、このくらいは補助金を使いましょう、このくらいは市のほうで負担していきましょう、と決めていく、ということは常にやっていることです。

市の予算は毎年いろいろつけていて、この部分だけ『私聞いてないわ』とおっしゃられても我々は困りますので、もし予算を見たいということであれば教育委員会に来ていただければ予算書などを説明します。

質問：この計画は、500万円という予算を使って下請けさせ計画させた案が提示されているのですか。

回答：今回の委託は、資料提供や補助的な作業を（委託業者が）行って、文化課が構想の元を作ります。そのためよその（市町の）状況を調べたり、専門家が調べないといけないものを出してもらいました。

質問：建物はその計画の中に入っていますか。

回答：基本構想ですと、富士宮市の文化財を見てもらってこのくらい（の収蔵庫面積）は必要だよねというものを出してもらっています。市としてできない専門的な知識を持った方に委託しています。他自治体であれば何千万とかけてすべてを作らせていく作業になるのですが、富士宮では予算をかけないようにとのことで、業者とやりとりして（原案を）作り、内容について委員さんに意見をもらいまた修正して、という作業を繰り返してやっとできたという状態です。

質問：もっと小さくするという考えはないのですか。

回答：(検討委員会の) 委員さんからは逆に小さすぎないか、もっと大きなものでもいいのではないかという意見が出ています。ただ、身の丈に合ったできる範囲のものを、できるだけ小さくという考えも持ちながらやっております。

質問：この博物館をつくるのにたぶん25億はかかるでしょう、毎年一億の運営費をかけて維持していくのは身の丈に合わないのではないのでしょうか。市民投票をしてはどうですか。

回答：ひとつひとつの事業について市民投票を行って予算を取っていくというのは考えられません。

質問：これは特別ではないのですか。

回答：今回説明をさせていただいていますので、こういうことを繰り返して(いきます)今までよその会場を回って、「がんばってください、施設自体は賛成します」という声も実はいっぱいもらっています。そもそもなぜ必要なのか等、反対意見も当然あります。

教育委員会で、スポーツ施設も持っています、プールだって、維持するのに相当なお金がかかります。しかし子供たちの楽しそうな顔を見たり、近くに大きなプールがあることに誇りをもってくれているという話もあります。

あれもやる、これもやる、その中の一つとして博物館は必要だよということで。

今までもずっと必要という声がありましたが、出来ないまま来てしまって、今やっと(着手できた)です、というのが我々の気持ちです。

・質問者⑥

質問：富士市の博物館は『富士山かぐや姫ミュージアム』と冠名を変えました。富士吉田の博物館も『富士山ミュージアム』に名前を変えています。富士宮市も独自性のある名前を考えてはどうでしょうか。いつまでも仮の名前ではなく、市民から名前を募集されてもいいし、独自のしっかりしたものを作っていただきたいです。

回答：ありがとうございます。今後検討させていただきます。